



# 株式会社 グリーング

## FAX送信サービスへの切り替えで 発注業務のスピードアップと管理工数の削減を実現

- ポイント
- 事業の急拡大に伴い、FAX送信の遅延が多発
  - FAXサーバーがサポート切れで安定性に不安
  - 送信時間の短縮や不達確認が容易になるなど効果大

創業：1957年  
設立：1964年  
本社：三重県四日市市  
資本金：1億円 売上高：180億円  
従業員数：2058名  
<http://www.greens.co.jp/>

会社概要

### 事業の急拡大に伴う システム改築の必要性

創業から50周年を迎えたグリーンズでは、早い時期から日常の領域で利用するエコノミー（ビジネス）ホテルに着目して、ミッドクラスやパジェットクラスを独自の経営戦略のもとに全国展開している。独自の戦略として、顧客のニーズを先取りする複数ブランド展開がある。1つは「シ

ティホテル」「ホテルグリーンパーク」「グリーンホテル」「ホテルエコノ」など、東海・北陸エリアで地域に密着した展開をしていくグリーンズホテルズ事業。もう1つは、全国展開型として世界第2位のホテルチェーンであるチョイスホテルズインターナショナル社とマスターフランチャイズ契約を締結し、その主要ブランドの中で主に「コンフォート」「クオリティ」のブランドを全国展開するチョイスホテルズ事業である。また、ホテル事業と並行して、レストラン、バンケット（宴会）、ケータリングなどの事業を拡大させてきた。

この間、同社の事業を支えてきたのは、一貫してIBMのミッドレンジ機である。システム/36からAS/400へ、そしてSystem i5へと移行し、今年3月にモデル720 (OS/400 V4R3) から520 (i5/OS V5R4) へ切り替えた。全社のシステム構成としては、システム導入当初は各ホテルにサーバーを配置する分散型だったが、1990年代初めにAS/400へ移行した時から1台の大型サーバーによる集中型へ変更している。

今年3月のサーバー切り替え時には、発注システムの改築と売掛システ

ムの部分的な改修を行った。本レポートでは、発注システムの改築をレポートしたい。

### 旧来のFAXサーバーの 深刻な問題点

同社はそれまで、各ホテル・レストランから仕入先への発注に日本IBMのFAXサーバー「FAX Director」を利用してきた。各ホテル・レストランの担当者がSystem iの画面から仕入宛宛てに発注処理を行うと、PCサーバー上のFAXサーバーヘデータが送られ、公衆回線を経由して仕入先のFAX機に打ち出される仕組みであった。

ところが、このシステムにはいくつかの問題があった。1つは、FAX送信用の回線が4本であったので、午前中の早い時間帯に69店のホテルが一斉に発注作業を行うとFAXサーバーの処理が追いつかなくなってしまい、大幅な遅延が起きていたことである。「仕入先にFAXが届くのが夕方になるということもありました」と電算部統括課長の赤塚太志氏は振り返る。

もう1つの問題は、FAX Directorがすでに販売中止となりサポート切れとなっていたために、「万一、FAX



赤塚太志氏

電算部  
統括課長



金川浩士氏

電算部  
係長

サーバーがトラブルを起こしてしまうと、対応できる人がどこにもいない。全店の業務に重大な支障が生じる」(電算部係長の金川浩士氏)という“爆弾を抱えた”状況にあったことである。

## 時間・コスト・要員配置を考慮しASPサービスを導入

そこでFAXサーバーに代わる仕組みを探したが、その時の考え方は、「コストがかからず、簡単に手直しができる」(金川氏)というものであった。検討の結果、採用したのは、アイエステクノポートのUT/400-iPDC (System i上に配置)を経由して直接FAXを相手先に飛ばすコクヨS&TのインターネットFAXサービス「@Tovas」である。

製品ではなくサービスを選択した理由について金川氏は、「従来と同じ

ように、System iとは別にFAX送信用サーバーを立てるとイチから構築しなければならず、時間的にそのような余裕はありませんでした。また、ASPサービスであれば運用について工数をかけずに済むと考えました」と説明する。

@Tovasを利用する新システムでも、発注業務の工程に大きな変更はない。System i上の発注画面から仕入先へ発注処理を行うと、仕入先のFAX機から注文書を兼ねた「納品書」と「納品書控え」がプリントアウトされる。そして仕入先業者から納品され検品が済むとSystem iに入力処理され、それを月末に一括処理して支払う仕組みである。

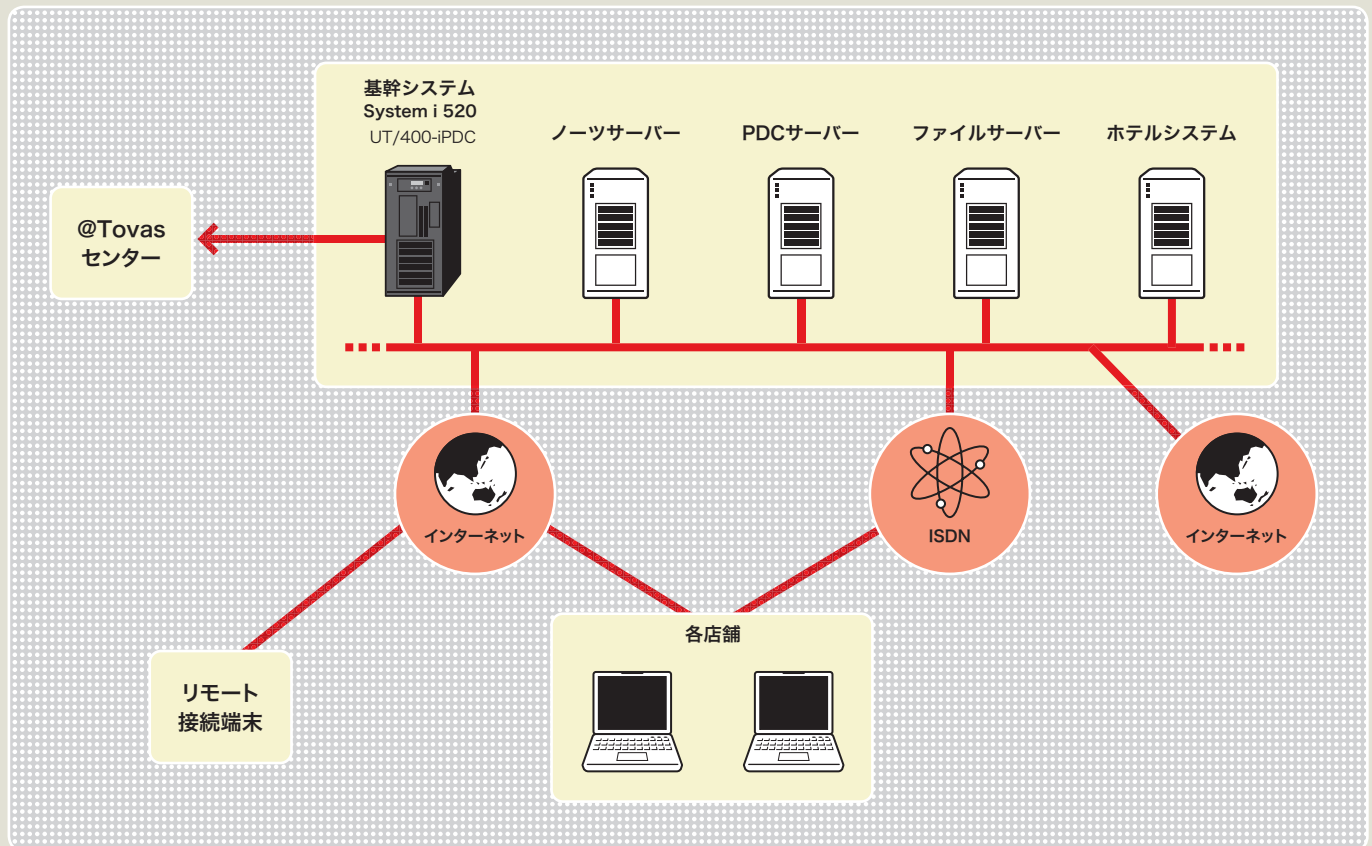
しかし、導入効果は大きかった。かつて送信終了まで7~8時間もかかることがあったのが、「30分以内に完了」するようになった。「以前は、早め

に発注してくださいと、その都度、注意を促していましたが、そうした心配がなくなりました」と金川氏は言う。

また、相手先にFAXが届かなかった場合の不達通知が、@Tovasではメールで担当者に返ってくる。それまでは、不達を確認するにはFAX Directorのところへ行ってコンソールを確認する必要があったので、「管理面の負荷が軽減された」という。

同社では今後、@Tovasを使った仕入先PCへのファイル送信も検討する予定。また、現在はSystem iから@Tovasへのデータの受け渡しを仲介しているUT/400-iPDCを使い、発注データのPDF保存を進める計画である。

「現在はスプールに残しているので、いつでもPDF化ができますが、管理体系を整備して取り組みたいと考えています」と赤塚氏は抱負を語る。❶



図表 グリーンの@Tovas利用のシステム概要図